



ちんせきじ 枕石寺

基本データ 住所：常陸太田市上河合町 1102-1

19 日(日)のみ

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	○	○	あり

※ 一部の文化財は、普段は公開していません。

枕石寺の来歴

枕石寺は真宗大谷派で、真宗二十四輩の第 15 番目の寺院です。

寺伝では、建暦 2 年（1212）のある雪の降る夕暮れ、親鸞^{しょうらん}が性信^{さいぶつ}と西仏の 2 人の弟子を連れて布教活動をしていた折、大門村（現常陸太田市上大門町）を訪れ、日野左衛門頼秋に一夜の宿を求めたところ断わられたため、石をまくらに雪の中に寝たといいます。一方、頼秋はその夜、千手観音が現れ「旅人に慈悲を」と頼秋を諭した夢を見ます。頼秋は早速親鸞たちを家に入れて非礼を詫び、教えを受けて出家し、弟子となり^{にゅうさいぼうどうえん}入西房道円と名を改めました。

道円は大門に一字を建立し、親鸞の枕した石にちなんで寺号を「枕石寺」としたそうです。その後、枕石寺は貞永元年（1232）には内田村（現常陸太市内田町）へ、さらに天文 9 年（1540）現在の地に移り、水戸藩第 2 代藩主徳川光圀により現在の「大門山伝燈院」の号に改められました。



入西作「雪中枕石之御真影」

枕石寺の文化財

- ^{こんしきんでいさんぶみょうてん}紺紙金泥三部妙典 市指定文化財（昭和 42 年 8 月 31 日指定）

三部妙典とは浄土三部經といわれるもので、^{むりょうじゅきょう}「無量寿經」上下 2 卷、^{かんむりょうじゅきょう}「観無量寿經」1 卷、「阿弥陀經」1 卷の三部、計 4 卷から構成されます。枕石寺には、4 卷のうち、「阿弥陀經」1 卷を除く 3 卷が残されています。

「無量寿經」は浄土宗、真宗の根本經典で、上巻では阿弥陀仏が因位（仏果を得るために修行する

地位)において四十八願を建て、西方極楽を成就した因果を説き、下巻では衆生(いっさいの人類)が極楽へ往生する因果を説いています。「観無量寿經」は、釈尊が摩揭陀国王頻婆沙羅まかだこくおうひんばさらの後妃偉提希さいだいけに説いた教えでもあり、「阿弥陀經」は阿弥陀の功德と極楽のことを述べた経文となっています。

○ 阿弥陀如来立像

1673年に光圀が寄進したものと伝えられています(本尊・造像は鎌倉時代と推定されます)。

○ 親鸞聖人御枕石【写真】

「大」「心」「海」の銘があります。

